

平成 22 年度 学力向上推進計画

学 力 向 上 対 策

学校教育目標

- 健康で明るく自主的に学び、思いやりがあり、粘り強い生徒の育成
 - 自分を大切にし他人を尊重する生徒・・・(徳)「自他敬愛」
 - 自主的に学習実践する生徒・・・・・・・・(知)「自主」
 - 丈夫な体で気力のある生徒・・・・・・・・(体)「健康」
 - 勤労を重んじ進んで働く生徒・・・・(勤)「奉仕」

本校学力向上対策の目標

幼児児童生徒一人一人に確かな学力などの生きる力をはぐくむ

本校の学力向上対策の研究テーマ

確かな学力を育む授業の充実を目指して
～生徒が意欲的に学ぶ授業実践を通して～

新学習指導要領の目指す「自ら学び自ら考える力や豊かな人間性、健康と体力」などの「生きる力」を育成するためには、その基となる基礎・基本を確実に身に付けさせることが必要である。県や市の学力向上対策の目指すところも同様であり、本校ではその目標の具現化のためにどのような教育活動が展開できるか、各教科における授業実践を通して、全職員で研究し、取り組んでいく。

校
内
の
推
進

父
母
・
地
域
力
制

取り組みの重点

- ①指導法、評価の工夫改善
- ②家庭学習の習慣化
- ③学校図書館を利用した読書指導
- ④情報教育・国際理解教育の推進

推進の視点

- ①主体的な取り組み
- ②課題に対応した取組
- ③具体的な取組
- ④日常的な取組
- ⑤実効性のある取組
- ⑥連携した取組

学校の取り組み

- 1、基礎的・基本の定着
 - 読み・書き・計算の力を育成する指導の工夫
 - 個に応じた補足的な指導の充実
 - 授業における評価を生かした指導
 - 学ぶ意欲を高める指導
 - コンピューターを活用した指導
 - 学校図書館を利用した読書指導
- 2、学習を支える力の育成
 - 学習の準備や態度の育成
 - 家庭学習の習慣化を図る指導
- 3、豊かな人間性の育成
 - 体験活動の充実
 - 伝え合う力の形成
 - キャリア教育学習プログラムを生かした指導
- 4、健康・体力の育成
 - 保健、食、安全に関する指導
 - 体力の向上を図る指導

家庭・地域の取り組み

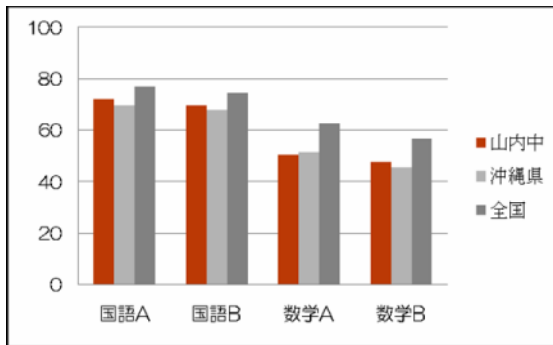
- 1、基本的な生活習慣の形成
 - 望ましい生活リズムの確立（起床・就寝・下校時間、あいさつの習慣化）
 - 授業参観、学年・学級PTA活動への参加
 - 学校への地域人材の派遣
 - 規範意識・マナーの育成
 - 自治会生徒会の地域清掃ボランティア
 - 宇運動会への生徒の参加
 - 地域生徒指導連絡協議会の実施
 - 学校における定例自治会長会の実施
 - 総合的な学習の場づくり
 - 家庭学習の定着と充実

P (計画) D (実践) C (評価) A (改善)

本校現状

1 平成 21 年度の諸学力検査の結果から

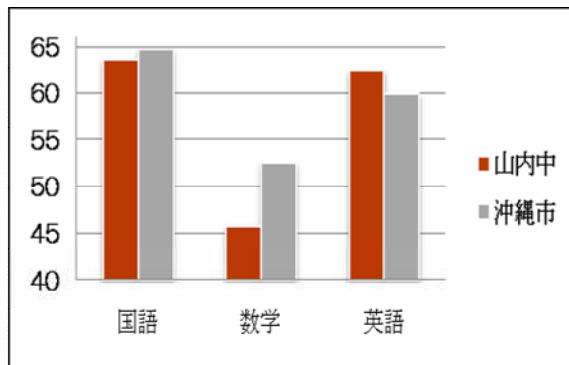
(1) 3 学年 全国学力検査



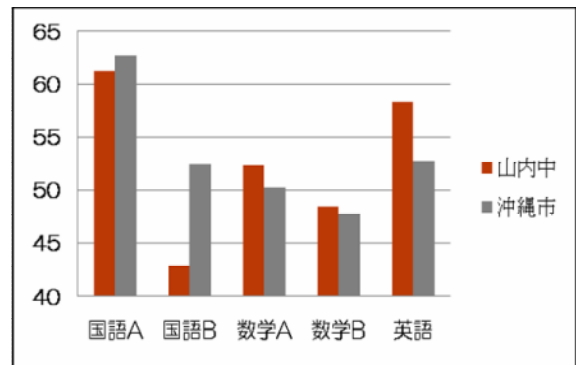
各教科とも市の平均を上回っているが全国平均とは5～12ポイントの開きがある。

(2) 2 学年

◆標準学力検査（5月）



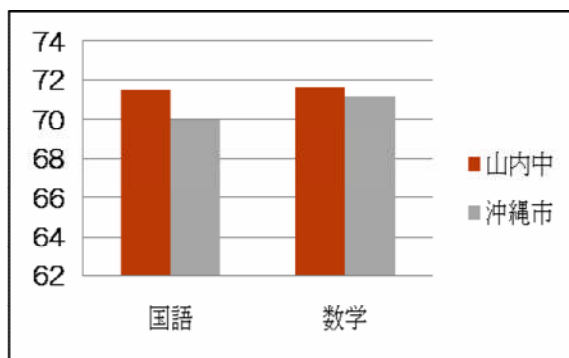
◆到達度テスト（12月）



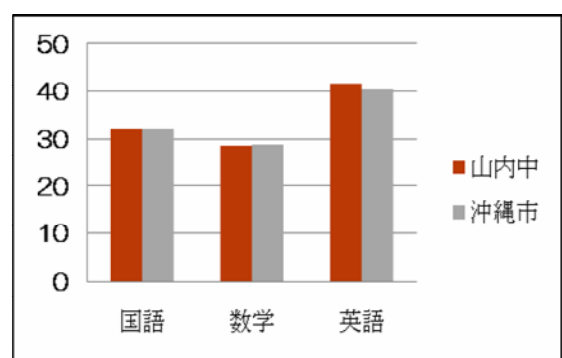
*数学・英語とも市の平均を上回っており、特に数学Aにおいては5月当初のテストに比べ大きな伸びが見られた。活用力を問う国語Bは今後の課題として取り組む必要がある。

(3) 1 学年

◆標準学力検査（5月）



◆沖縄市基礎学力検査（12月）



*各教科とも市の平均点に並ぶ結果である。5月の国語は市の平均を1.5ポイント、英語は1.3ポイント上回っている。

2 平成 22 年度全国学力検査の結果から

◆国語 A：主として知識

・集計結果より

本校平均正答率→67.7% 県との差(0%) 全国との差(-7.4%)

・分類・区分別集計結果より全国平均との差が8%以上の領域(平均正答率)

「書くこと」・・・本校(62.5%) 県との差(+0.2%) 全国との差(-8.6%)

「読むこと」・・・本校(67.4%) 県との差(-1.8%) 全国との差(-9.2%)

・設問別集計結果より

全国平均を上回った設問・・・設問1

特に正答率の低い設問・・・設問4二、9二(書くこと)

(50%以下)

設問6一、8一(読むこと)

設問10三イ、10七(言語事項)

全国平均との差が10%以上の設問

設問2(読むこと一述べている内容をその根拠との関係について考える)

設問10一(言語事項一文脈に即して漢字を正しく書く)

設問10三エ(言語適切な敬語を選択)

設問10四2(言語事項一単語の類別や働きについて理解し、同じような意味を表すように書き換える)

◆国語 B：主として活用

・集計結果より

本校平均正答率→56.9% 県との差(-1%) 全国との差(-8.4%)

・分類・区分別集計結果より全国平均との差が8%以上の領域

「書くこと」・・・本校(49.0%) 県との差(-1.2%) 全国との差(-11.2%)

「読むこと」・・・本校(58.7%) 県との差(-1.6%) 全国との差(-8.8%)

・設問別集計結果より

正答率の高い設問・・・設問3-A、3-B(読むこと一文脈の中における語句の意味を的確にとらえる)

特に正答率の低い設問・・・設問1二(読むこと一記事文における表現の仕方をとらえる)

(50%以下)

設問1三(読むこと一記事文の内容をもとに、自分の考えを書く)

設問2三(話すこと・聞くこと、書くこと)

(資料の提示の仕方を工夫し、その方法について具体的に説明する)

設問3二(読むこと一表現の仕方に注意して読み、内容について理解する)

・全国平均との差が目立った設問d(-12%以上)

設問2二(「書くこと」「読むこと」)

(文章から必要な情報を集め、資料に表れている工夫を自分の表現に役立てて書く)

設問3三(「書くこと」「読むこと」)

(文章の内容や表現の仕方を捉え、自分の考えを明確に説明する。)

考察：全体的に読み取り問題の正答率が低い。

読み取り問題の中でも、選択式の問題は正答率が高くなっているが短答式・記述式の問題では全国平均との差が目立ち正答率も低い。

◎ **数学 A: 主として知識**

《集計結果より》

本校平均正答率→52.0% 県との差(+1.0%) 全国との差(-12.6%)

《分類・区別集計結果より》

県平均を上回った領域・・・「図形」→県との差(+1.4%) 全国との差(-10%)

「数量関係」→県との差(+4.2%) 全国との差(-11.3%)

県平均・全国平均を下回った領域・・・

「数と式」→県平均(-2.8%) 全国との差(-16.7%)

《設問別集計結果より》

特に正答率の低く、全国平均との差が著しかった設問・・・

設問2(5)、3(2)、3(4)→「数と式」

設問5(4)、6(1)、7(2)、7(3)→「図形」

設問9(2)、10(1)、**11(3)**、12→「数量関係」

※(具体的な事象における一次関数の関係を式で表すことができる)では落ち込みが目立った。

◎ **数学 B: 主として活用**

《集計結果より》

本校平均正答率→28.9% 県との差(-1.1%) 全国との差(-14.4%)

《全国平均との差が著しい問題》(-50%以上)

設問1(2)、2(2)→「数と式」 5(2)、6(1)→「数量関係」

*考察：記述式形式の問題は正答率が全体的に低い

学力向上への重点取り組み

(1) 朝読書の徹底

毎朝8:25~8:45に実施。好きな本を確実に準備させ(内容の充実)、職朝時は点検活動を行う。(教師と専門委員会)

(2) 家庭学習の推進

家庭学習帳一人3冊を目標に、本校オリジナルの家庭学習ノートを用い、担任で点検、コメントを書く。学期終了時には家庭学習を頑張った生徒を全校集会で表彰・激励を行っている。

(3) 毎週金曜日を言語活動の日として活動

新聞を活用して、読んだり考えたり自分の感想を書いたり述べたりすることで、自己表現力や発信力を身につける。(校内研資料参照)

(4) 各教科における指導の工夫・改善

(校内研修資料参照)

(5) 夏休み期間の補習指導の実施

5教科を中心に実施。主に各教科で学力の低い生徒を抽出し、日時を設定して指導を行った。前年度より開設する教科が多く、職員の意識も高い。自主的に参加する生徒もいて、充実した補習指導ができた。

(6) 基礎学力強化月間(11月)の実施

基礎学力の向上と家庭学習の質の向上を目的に1.2年生は国数英、3年生は5教科を中心に授業と連動した家庭学習の取り組みを行った。

具体的な取り組みとして、にそれぞれの教科担任から現在行っている授業内容と関係した課題を事前に提示して、学校オリジナルノートに取り組んだ。学習チェックは各学級の学習係・担任で行い、学習内容の解答や解説は授業で行った。

本年度の成果&課題

≪成果≫

1. 生徒の学習状況

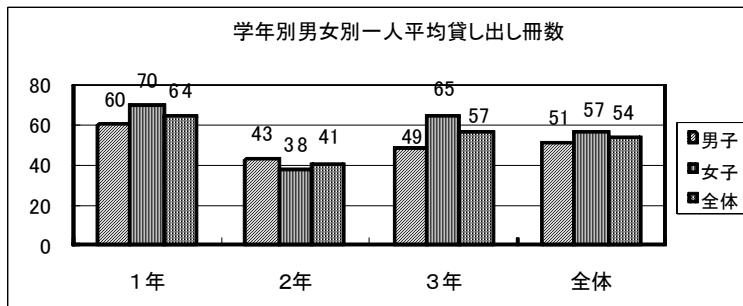
- (1) 平成 22 年度全国学力・学習調査（4 月：3 年）
 - ①沖縄市内 3 位（平成 21 年 12 月に行われた調査より市内順位が上がる。）
 - ②全ての教科で市内平均を上回っている
 - ③数学Aについては、県平均も上回っている。
- (2) 市学力調査（4 月）
 - 国語・数学(中1)
 - ①市内総合 3 位
 - ②数学については、市内平均を大幅に上回っている。
 - 国語・数学・英語（2 年）
 - ①市内総合 3 位
 - ②英語については市内でも上位の得点
- (3) 市学力調査（中3入試模擬：10 月）
 - ①市内総合 3 位
 - ②英語については市内 1 位の得点（市内平均を大幅に上回る）
- (4) 到達度調査（2 年：12 月）
 - ①市内総合 2 位（4 月の調査より市内順位が上がる）
 - ②数学の得点が市内上位に躍進
 - ③英語については上位得点を維持する。
- (5) 市学力調査（1 年：12 月）
 - ①市内総合 3 位
 - ②英語については、市内 1 位

2. 朝読書・家庭学習

(1) 朝読書

22 年度の貸出状況（4 月 12 日～3 月 4 日・3 年生～2 月 10 日）

- ☆貸出総冊数・・・ 35,892 冊
- ☆一人平均貸出冊数・・・ 54 冊（H21⇒24.5 冊）
- ☆貸出日数・・・ 199 日



☆50 冊以上本を借りた生徒数 262 人（40%）

	1 年	2 年	3 年	全 体
男子	59	36	41	136
女子	56	26	44	126
合計	115	62	85	262



* 昨年度に続き、読書冊数は県が打ち出している目標平均冊数（40 冊）を上回った。

(2) 家庭学習

☆ 総冊数・・・・・・・・・2,490 冊

☆ 一人平均冊数・・・・ 3.8冊

	1年	2年	3年	全体
男子	0	4	2	14
女子	1	2	11	19
合計	1	6	13	20

☆1年間 10冊以上終了者

*昨年度に続き、一人当たり平均冊数が前年度を上回り、家庭学習の習慣化に取り組むことができた。

(3) 各教科・領域における指導法の工夫・改善

*校内研修の一環として8教科・領域において検証授業等を実施し、基礎学力の確かな定着を試みた。

*英語イマージョン教育の実践、総合的な学習の時間を通して、積極的な「国際理解教育」を展開することができた。

*情報機器活用の研修等をきっかけに、機器を駆使した授業実践を積極的に行う教科が増えた。

(4) 「言語活動の時間」を週1回(金曜日)設定して、月間①テーマ②計画に沿って全校体制で活動することができた。 ※具体的な成果は校内研修資料を参照

《今後の課題》

(1) 家庭学習の質の向上(授業と連動した家庭学習の取り組み)

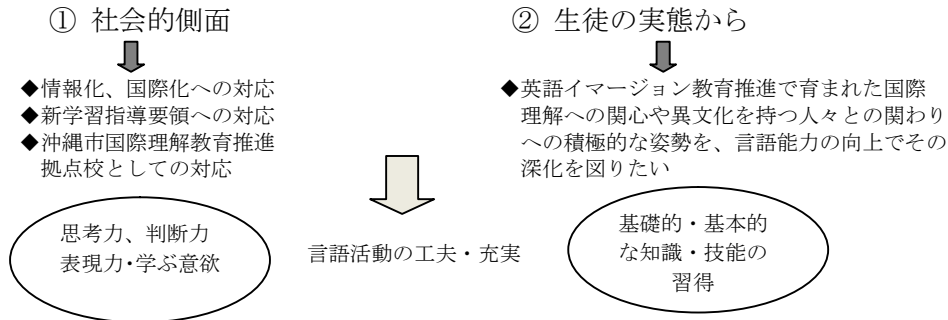
(2) 朝読書の質の向上

(3) 言語活動の充実を図る取り組み

山内中学校 校内研修報告書

1. 研究テーマ 「国際化・グローバル化に対応できる生徒の育成」
～各教科・領域における言語活動の充実を図る実践の工夫を通して～

2. 設定理由



3. 目指す生徒像

これからの社会をよりよく生きるための国際性豊かな幅広い能力を身につけた生徒

- (1) 他人の個性や考え認め合い、相手を思いやることのできる生徒（認め合い）
- (2) 自国の文化や他国の文化に対する理解を深め、異文化をもった人々と強調して生きていこうとする生徒（協調性）
- (3) 自分の考えや思考を適切に表現する力を持った生徒（表現力）
- (4) 取り組むべき課題に対して情報を活用し、より良い方向に修正していくことのできる生徒（向上心）

4. 実際の取り組み

- (1) 英語イマージョン部会：◆英語パースナルイマージョン手法を用いた教育実践の推進
◆異文化への関心・理解を高めるための学習環境の工夫・改善の推進
《具体的取り組み》
 - 英語による朝の学活
 - 英語による校内放送の充実（朝・お昼の放送、各行事）
 - 英語イマージョン手法による総合的な学習の時間の授業展開（2学年）
 - KMS との交換留学の推進・充実
 - 諸交流会の計画・推進（KMS とのコラボボランティア活動）
 - 英検プロジェクト推進
- (2) 教科部会：◆各教科における言語能力の育成と確かな学力の向上を図るための指導法の工夫改善を目指す
《具体的取り組み》
 - 講師を招聘し理論研修
 - 各教科・領域における検証授業&授業研究会の充実（週1の教科部会の充実）
- (3) 各領域・総合的な学習の時間部会：◆様々な体験活動や言語活動の工夫・充実を通して積極的な自己表現力・発信力の向上を目指す
《具体的取り組み》
 - 「言語活動の時間」の計画・推進（毎週金曜日の朝 全学年対象）
 - 総合的な学習の時間「山内タイム」での取り組み ☆3学年がリンクした取り組み
1学年テーマ：地域を知る「沖縄の伝統文化」

2 学年テーマ：地域を結ぶ「地域交流」職場体験を通して、九州との関わりを通して

3 学年テーマ：地域を広げる「自己を見つめて・国際交流」

○総合英語「Happy English」：ALT を中心とした英語イマージョン授業の展開（1 年～3 年生）

5. 成果&課題

《成果》

●諸学力調査から

数学・英語における基礎・基本の着実な定着が見られる。（学力対策報告書資料参照）

●「言語活動の時間」での様々な活動を通して、“表現することは楽しい”と感じる生徒が増え、今後の言語活動へのモチベーション作りを図ることができた。

[アンケート結果]

- * 『言語活動の時間』は興味を持って楽しく活動することができましたか。』に対して、調査した生徒の80%が「楽しく活動できた」「どちらかと言えば楽しく活動できた」と答えている。

《生徒の感想》：・班や全体発表をしてみんなと仲良くなった ・グループ活動が楽しかった
・みんなの意見が聞けて楽しかった ・いろいろな活動が楽しかった

- * 新聞を活用した活動を通して、「世の中の出来事に関心が高まった」「どちらかと言えば高まった」が66%であった。

- * 『言語活動の時間』はあなたの生活にどのような影響をもたらしましたか。』に対して、
 - ・世の中のニュースに興味を持つことができた ・考える力がついた ・書く力がついた
 - ・みんなの前で自分の思いをきちんと伝えられるようになった
 - ・人の意見もきちんと聞けるようになった ・国語での文章表現が楽しくなった
 - ・みんなと仲良くなった

●英語イマージョン教育プロジェクトの継続・充実

- * 英語による学習環境整備・イマージョン手法による授業実践（2年）・英語による校内放送に加え下記の取り組みの充実を図ることができた。

①KMS との交換留学や学習交流の充実（1・3 学年との学習交流）

○6 月KMS より30 名1 週間受け入れ。

○春休み中本校生徒(1・2 年生)がKMS へ週間留学予定

②KMS とのコラボボランティア活動への参加

○ハロウィンカーニバルでの動物愛護活

③英語力向上推進プロジェクトを昨年に引き続き全学年対象に実施

<英検合格率>

1 回目・・・5 級→87.8% 4 級→56.4% ※2 級1 人 準2 級1

2 回目・・・5 級→88.2% 4 級→68.0% ※準2 級2 人

《課題》

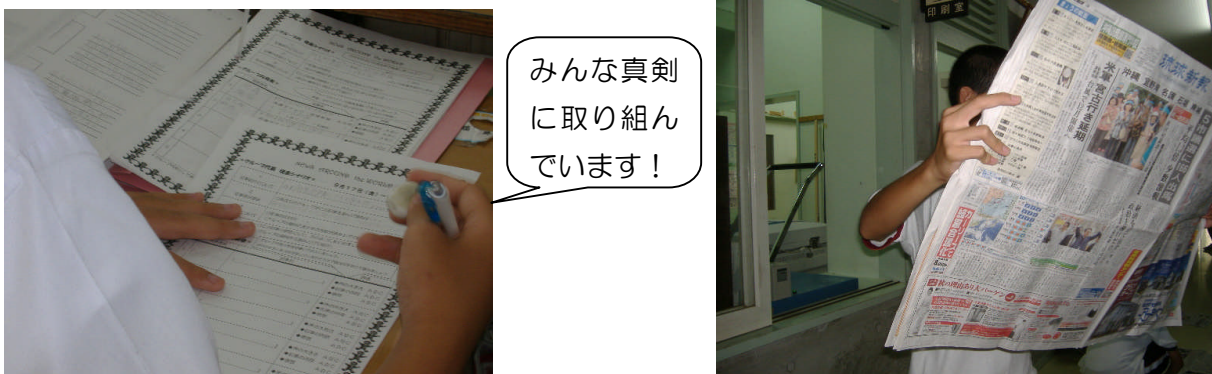
○各教科における課題分析と基礎的・基本的知識・技能のさらなる定着を目指した授業づくり。

○言語活動の充実を図る取り組み。 ○継続可能な英語イマージョン教育の推進、充実。

<資料1> ☆検証授業での様子・・・



<資料2> 『言語活動の時間』での様子・・・



<資料3> 総合的な学習の時間での学習の様子・・・



3年 交流学習の様子



<資料4>

「言語活動の時間」推進計画

1 活動名&活動時間

活動名:「言語活動の時間」

活動日:毎週金曜日朝 8:25~8:45 (20分)

2 ねらい:

- ①共通のテーマについて、資料を参考に読んだり考えたり自分の感想を書いたり述べたりすることで、自己表現力や発信力を身に付ける。
- ②他の意見や考えに関心を持ち、自分の考えをさらに向上していこうとする姿勢を身に付ける。

3 具体的実践

- (1)全員統一テーマについて取り組む。
- (2)テーマによって、長期休暇(夏休み・冬休み)や週末の課題として取り組ませ、できるだけ一人月一度のペースで発表の機会を与える。※一人約2分
- (3)週末課題として取り組ませる時は、家庭学習の一環として取り組ませる。
- (4)各テーマの個人資料は全員提出させ、教師印を押印して返す。

(5)資料は、特活ファイルに綴らせる。

(6)留意事項

- ①生徒が楽しく参加できる雰囲気大切にす。
- ②課題まとめシートは統一して、まとめやすさを工夫する。

4 実施計画

月	テーマ	教科の関連性	技能
7月	世の中に目を向けよう。(ニュースから)	総合・社・国	R・W・S
8月	宿題 3つのニュースを調べよう。	総合・社・国	R・W
9月	3つのニュースを紹介しよう。	総合・社・国	S
10月	スポーツの秋をニュースで表現しよう。	総・社・国・体	R・W・S
11月	私のお薦めの本を1分間でスピーチしよう。	総合・国・特	R・W・S
12月	1年の自分の頑張りに手紙を書こう。	総合・国・道	W・S
1月	新年の抱負を漢字、1文字で表してみよう。	総合・国・特	W・S
2月	沖縄の方言の諺や挨拶などを書いてみよう。	総合・社・国	R・W・S
3月	この1年の自分の成長を手紙に書こう	総合・国・道	W・S

*アンケートから・・・

- ☆「世の中の情報はどこから得るか」に対して、「テレビ」が81%、「新聞から」が10%である。
- ★「世の中の出来事について家族と話すことがある」に対して、「よくある」「週3～4」が44%、「ない」が22%である。
- ☆「世の中の出来事について友だちと話すことがある」に対して、「よくある」「週3～4」が34%、26%が「ない」と答えている。
- ★「新聞を読んでいる」に対して、「よくある」「週3～4回」が28%で、「読んでいない」が3年生50%（不読者が7月の調査に比べ5%減少）、1年生48%、2年生が29%となっている。

Let's keep supporting our children to make their dreams come true!